

肺 癌 内 科 診 療 マ ニ ュ ア ル

EBMと静岡がんセンターの臨床から

山本 信之 監修

宿谷 威仁 編
三浦 理

静岡県立静岡がんセンター
呼吸器グループ 著

Ⓔ 医薬ジャーナル社

IV. 臨床で遭遇する問題点・疑問

11. 病状説明のポイントとコツ
(薬剤師の視点から)

【鈴木 賢一・三浦 理】

抗癌剤治療を開始または変更するにあたり、多くは医師により方針が決定され、看護師とともに患者に内容が伝えられて、同意が得られた時点で治療方針が決定される。

それに関わる薬剤師は専門家として、適切な組み合わせの薬剤であるか、薬剤の量は適正であるか、相互作用を及ぼす薬剤はないか、などに関する評価を行う。その一方で、外来化学療法にシフトしつつある肺癌治療の現状においては、抗癌剤とそれに関わる副作用に対する患者の理解と自己管理が重要となっており、専門家としてそこにアドバイスを行う薬剤師の役割はますます重要なものとなってきている。

抗癌剤治療の説明における薬剤師の役割

- ・患者本人や家族の精神状態の把握
- ・医師の説明内容に関する補足的意味合い
- ・健康食品などへの対応
- ・治験薬(抗癌剤)や臨床試験による治療の説明
- ・コンプライアンスの確認

患者本人や家族の精神状態の把握

・医師からの病状説明が実施された後に、予定されている化学療法について薬剤師から説明を行うことが多い。抗癌剤治療のこと、病状に関すること、余命のことなど、精神的に大きな影響を受けている状況での説明となるケースが多いため、特に初回治療時には担当の看護師などからその時の精神状態、最も不安を抱えている点など、あらかじめ情報を確認しておくことが重要である。必要であれば家族の同席、説明内容や説明する時間帯、場所などの調整を必要とする。

- ・最も不安を抱いている点を把握し、まずはその部分のみに焦点をあてる。
- ・何が不安なのか、どうして不安か、それに対してどのような対応ができるかを検討することで解決策がみえる場合がある。
- ・初期に発現する症状、第2週目以降に発現する症状など、発現時期を考慮して説明内容を分けるなどの工夫をする。

医師の説明内容に関する補足的意味合い

- ・医師からの説明内容に対し、理解しづらかった点や、医師への質問内容を再度薬剤師へも質問されることなどは日常的である。また、予定されている治療方法以外のレジメンや、抗癌剤に関する話題を持ち出し、どうしてその治療は選択できないのかなど、治療方針の確認的な質問なども多い。
- ・最近ではインターネットや実際に治療を受けている患者のブログなどから、安易に多くの情報収集が可能となっている半面、得られた情報の吟味や整理ができていない場合が多く、かえって混乱を生じていることもあるので注意が必要である。

- ・薬剤師は抗癌剤治療の説明時に、初めて患者に対面することが比較的多い。予定されている治療法が選択された背景などを十分理解している姿勢を示すことで、初対面であっても医師、看護師など他のスタッフとの連帯感を感じることができ、安心につながると思われる。
- ・標準治療に関する最新情報、その患者に選択された治療方針の経緯など、治療の背景を十分理解し、他の医療スタッフと事前に確認しておく。
- ・患者は、副作用症状は長期にわたり持続して発現するものなど、誤って理解している場合も多い。副作用の多くは発現と消失を一定期間内で繰り返す、経時的な体調の変化があることを重点的に説明することで、治療期間中の生活リズムをイメージしやすくなる。それにより、家庭内の行事や旅行などの計画を立てやすくなり、QOLの改善に寄与することができると考えられる。

IV. 臨床で遭遇する問題点・疑問

- ・なぜその治療法が選択されたか、なぜ治療を行うかなど根本的な部分について理解が不十分な可能性もある。必要があれば医師に情報提供し、補足説明の必要性について検討する。
- ・治療関連死亡や予後など、悪い情報のみが強烈にインプットされている場合が多く、治療内容の説明まで理解が行き届かない場合がある。その際にも医師、看護師と連携の上、補足説明の必要性について検討する。

③ 健康食品などへの対応

- ・当院では医師との申し合わせの上、原則的に抗癌剤治療中は健康食品、サプリメント等の摂取を控えるよう指導している。
- ・市販されている健康食品は副作用がないとうたわれている場合が多いが、実際には肝障害や間質性肺炎などの報告、経験があることは事実である¹⁾。
- ・併用治療中に予想されない副作用が出現した場合、疑いのある健康食品とともに、効果が出ている可能性のある抗癌剤を休止または中止せざるを得ないこともある。その場合、患者に大きなデメリットが生ずることになる。
- ・どうしても服用したいとの希望が強い場合には、その危険性などの説明を行うとともに内容について確認し、医師と協議の上、最終的には個別に対応している。

- ・複数の健康食品類を摂取している場合には、含有されている脂溶性ビタミン類の1日摂取許容量を超えていないかなど、過量摂取に注意する。
- ・脂溶性成分の過量摂取により、肝障害などを発現する可能性がある²⁾。
- ・抗癌剤との相互作用は不明なものが多い。

④ 治験薬（抗癌剤）や臨床試験による治療の説明

- ・治験や臨床試験の場合、あらかじめ担当CRC（臨床試験コーディネーター）より詳細な説明がなされているため、発現する副作用への対処法や発現時期などについて補足的な説明を行う。

11. 病状説明のポイントとコツ（薬剤師の視点から）

- ・治験薬には相互作用などの理由のため、併用薬の規定がなされている場合が多い。何らかの症状発現時に薬物治療を検討する場合には、相互作用などへの注意を払うとともに、担当CRCへの連絡も必ず行っていくことが重要である。

⑤ アドヒアランスの確認

- ・分子標的薬剤などの経口抗悪性腫瘍薬が増えている。来院し点滴治療する従来の治療に比べ安易な半面、アドヒアランスを患者自身の管理に委ねることで、むしろ不安を感じる患者も多い。

- ・服薬の目的、利点の説明を行った上で、副作用やアドヒアランスの説明を行う。
- ・生活リズムを考慮した、服薬計画の立案、副作用症状発現時の対応、飲み忘れたときの対処などの説明を適切に行うことで不安が軽減する場合が多い。
- ・服薬時の嚥下障害などが想定される場合には、簡易懸濁法なども含め、投与経路の検討および提案を行う。

文献

- 1) 東元一晃 ほか：成人病と生活習慣病 37：341-348, 2007
- 2) 乾 由明 ほか：臨床消化器内科 25：1487-1492, 2010

肺癌内科診療マニュアル

～ EBM と静岡がんセンターの臨床から ～

定価 8,190 円 (本体 7,800 円 + 税 5%)

2011年10月10日初版発行

監修 山本 信之

編者 宿谷 威仁

三浦 理

発行者 岩見 昌和

発行所 株式会社 医薬ジャーナル社

〒541-0047 大阪市中央区淡路町3丁目1番5号・淡路町ビル21

TEL 06-6202-7280

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3丁目3番1号・TKiビル

TEL 03-3265-7681

<http://www.iyaku-j.com/>

振替口座 00910-1-33353

乱丁、落丁本はお取りかえいたします。

ISBN978-4-7532-2511-8 C3047 ¥7800E

本書に掲載された著作物の翻訳・複写・転載・データベースへの取り込みおよび送借に関する著作権は、小社が保有します。

・**JCOPY** <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

小社の全雑誌、書籍の複写は、著作権法上の例外を除き禁じられています。小社の出版物の複写管理は、(社)出版者著作権管理機構(**JCOPY**)に委託しております。以前に発行された書籍には、「本書の複写に関する許諾権は外部機関に委託しておりません。」あるいは、「(株)日本著作出版権管理システム(**JGMS**)に委託しております。」と記載しておりますが、今後においては、それら旧出版物を含めた全てについて、そのつど事前に(社)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979)の許諾を得てください。

本書を無断で複製する行為(コピー、スキャン、デジタルデータ化など)は、著作権法上での限られた例外(「私的使用のための複製」など)を除き禁じられています。大学、病院、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

本書の内容については、最新・正確であることを期しておりますが、薬剤の使用等、実際の医療に当たっては、添付文書での確認など、十分にご注意をお願い致します。株式会社 医薬ジャーナル社